

2023Japan National Team Report ” サポーター”



報告者氏名	長堀 あや
大会名	2023 Optimist European Championship
開催地	Thessaloniki, Greece
大会期間	2023年7月15～21日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	テッサロニキ市内は非常に歴史的な街で、現代の街の中に突如古代遺跡が登場する。クラブハウス周辺は、21時ごろに女性と子どもで外を歩いていたが、ホームレスなどもおらず、治安の面では安全だった。選手たちが宿泊していたホテル周辺は、ホームレスをはじめ売春婦などもいたため、子どもたち単独での外出は禁止したと聞いている。レース日、最初の予告信号は13～14時と、ゆっくりスタート。日は長く、プラクティスでは18時頃から海に繰り出す国もあった。20時になると暗くなっていく。
宿泊場所	大会期間前は、選手たちとともにアパートをレンタル。大会期間中は、選手・監督・TL は大会が用意したホテル(クラブからバスで30分)泊のため、サポーターはすぐにサポートができるようクラブから徒歩5分程度の場所のアパートを予約した。
大会のサポーターへの対応は	6歳の次男を連れていたこともあり、大会本部の人とは非常に友好的なやりとりができた。クラブハウスは基本的に巨大扇風機が回っているだけで非常に暑かったが、大会本部の厚意で、次男を冷房のきいた部屋へ連れて行ってくれたり、ボードゲームを貸してくれたり、一緒に遊んでくれたりもした。クラブハウス内での涼しい待機場所を教えてくれたり、日本語であいさつしてくれることもあり、チームジャパンに対してとてもホスピタリティにあふれる対応だったように感じた。大会用意の交通手段は選手、コーチ、TLのみ使用可。サポーターの移動に関しては全てサポーター自身で用意する必要あり。大会本戦1日目に保護者(サポーター)対象のテッサロニキ市内観光の無料ツアーあり(7/20 10:00～13:00。集合解散場所であるホワイトタワーへの交通手段であるタクシーも自身で手配)。
選手たちのコンディションはいつもとどうでしたか？	非常に暑く、厳しいコンディションではあったものの、全選手倒れることなく乗り切れた。食事も日本人の口に極端に合わないものは少なかったようだが、環境の変化や疲れ等で食が進まないこともあったよう。ただし、大会期間を通して、しっかり食べ、しっかり体を休めることの重要さや必要性に自分自身で気付き、日を過ごすにつれ、暑さや疲れが選手たちの表情から見て取れた。
サポーターとして気をつけたことは？	少しでもリラックスした状況で海に出られるよう、おにぎりやそうめんを用意。比較的食べやすい食事がホテルから提供されていたが毎日同じような献立(主食はパン)だったようなので、出艇前に食べる昼ご飯に、おにぎりやそうめんを毎日用意。気温が40℃近くにもなっていたので、そうめんはのど越しも良く、食べやすいようだった。おにぎりは、炊

	き込みご飯やふりかけごはんを用意。コーチの指示により、スポーツドリンクは2倍量に薄めたものを用意。
海外の選手を見て感じたことは？	他国の選手に対して非常に積極的にコミュニケーションを取っているように見えた。
日本の選手を見て感じたことは？	他国からのアプローチがあれば、それに反応する、というように、受動的な姿勢が散見された。ただ、日を追うごとに少しずつ他国選手に臆することなく対応できる場面も増えてきたように感じた。英語力の乏しさはもちろんだが、英語ができなくてももっと能動的に行動を起こす姿勢が必要だと感じた。
Spare day の過ごし方は？	本大会では spare day は無し。
日本チームとしての課題はありましたか	英語力の乏しさが非常にもったいなかった。他国の選手は母国でない英語でもコミュニケーションを取る一方で、日本人選手はジェスチャーや単語でなんとか、という様子を何度かみかけた。今後の関係につなげていけるところまでもっていったら良いと思うが、その場限りのやり取りで終わってしまうので、その点が非常に残念。英語力の乏しさとは別に、積極的に且つ自発的に他国選手と関わっていく度胸が必要かもしれない。
JODAへの要望	基本的英会話を学ぶ機会があると良いと思う。
その他	NdR にはコロナに関する注意喚起(各自自分専用のネックバフ、マスクを持参することを強く推奨する、等)が書かれていたものの、実際には現地でマスクを使用している人はほとんど皆無。海上ではもちろん、陸上でマスク等をしている人もいなかったように見受けられました。 ヨーロッパのセーリング文化を目の当たりにし、これからの日本のOPセーラーが彼らと渡り歩いて行くためには、気づくべき壁や越えなければならない壁がまだ多くあるなと感じました。 このような素晴らしい経験を日本代表と常同し、経験できたことに心から感謝いたします。子供達には、この経験を今後の人生に生かしてほしいと思いました。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会